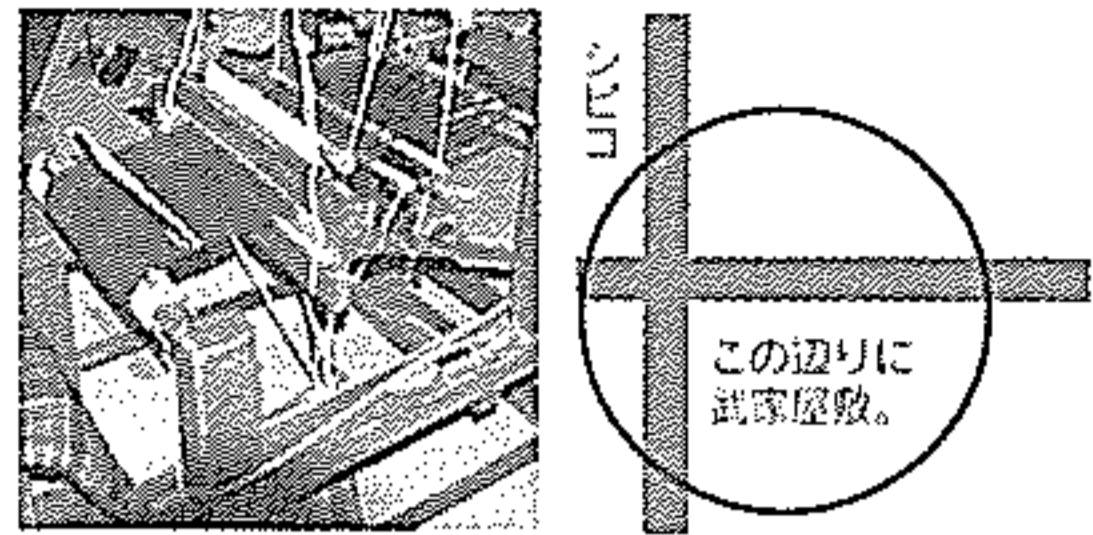


康生いつたい

城内木綿 (じょうないもめん)

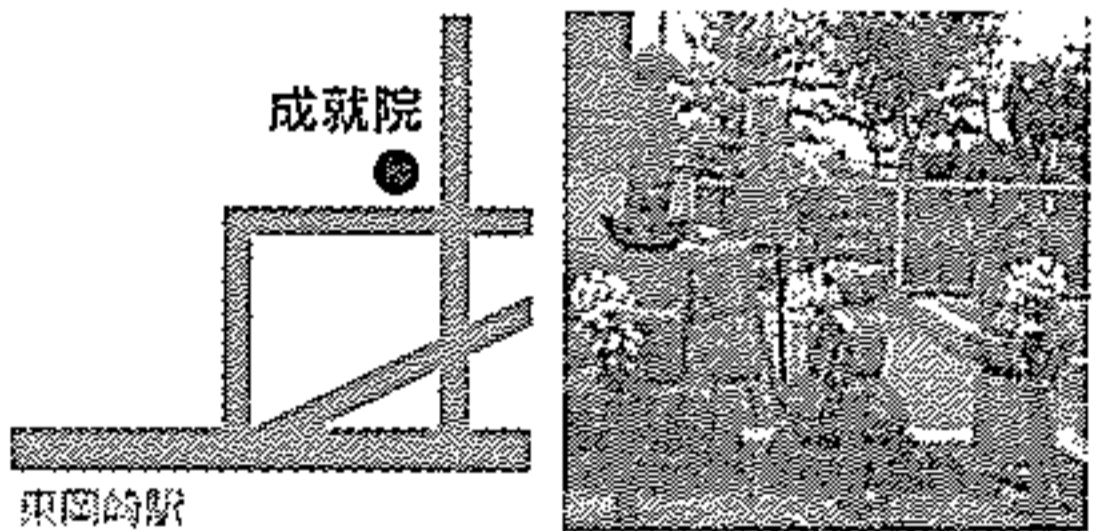


江戸時代に岡崎城内の藩士の家庭で織られた三河木綿の最上級品です。当時、中下級武士の家庭では、衣類は自ら織って着用するのは普通のこと。木綿の産地である岡崎では、庶民の家庭と同様に、武士の家庭でも現金収入の手段として機織りが行われていました。内職といえども、決して手を抜かないのが武家の妻や娘。いつしか最高の木綿の布と評価されるようになりました。

■岡崎市康生通東

東岡崎駅周辺

成就院 (じょうじゅいん)

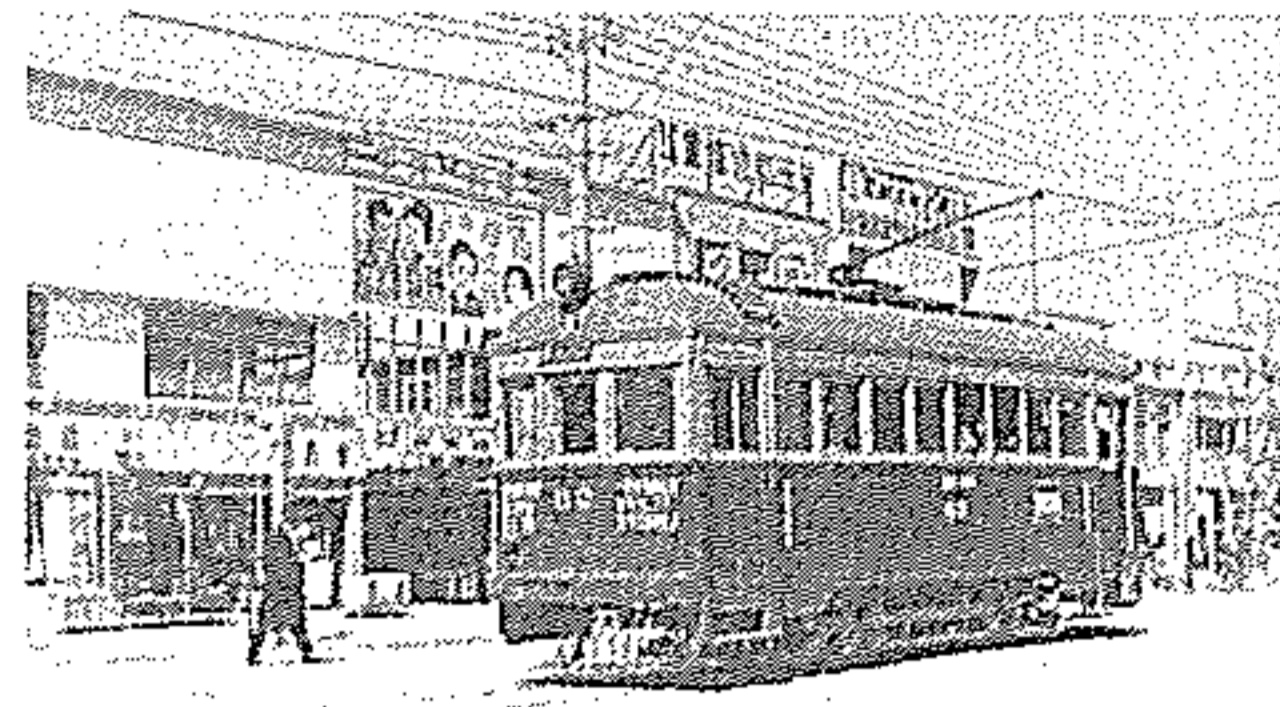


浄瑠璃姫と侍女・冷泉の墓があります。姫の死を悲しんだ冷泉が、入水の地に庵を結び菩提を弔いました。その後の長い戦乱で庵は廃れ、寛政年間(1460~66)に、名僧・竜沢永源(りゅうたくえいげん)が浄瑠璃淵から一光三尊阿弥陀如来像を引きあげ、庵跡に寺を建立しました。姫の追善回向を行い、姫が成就できたことから、寺の名称は成就院となりました。

■岡崎市吹矢町96

康生通の岡崎市電 (2)

～貨物電車のお通りだい～



現在のシビコの前に停車する市電。撮影されたのは1954年。中央劇場の映画の看板と、帽子にコート姿の紳士が、レトロな雰囲気をかもしだしています。

※写真は「路面電車と街並み 岐阜・岡崎・豊橋」より

純情さらりのロケ地 (2)



名鉄東岡崎駅の南口からすぐの六所神社では、幼い頃の桜子とキヨシが決闘するシーンや、昭和13年正月の初詣で、東京音楽学校への合格祈願をするシーンなどが撮影されました。

参道には甘酒や団子、お面の露天が設けられました。現在の初詣では氏子の人たちにより、甘酒やお汁粉、お神酒がふるまわれています。

■発行

電車どおり4商店街

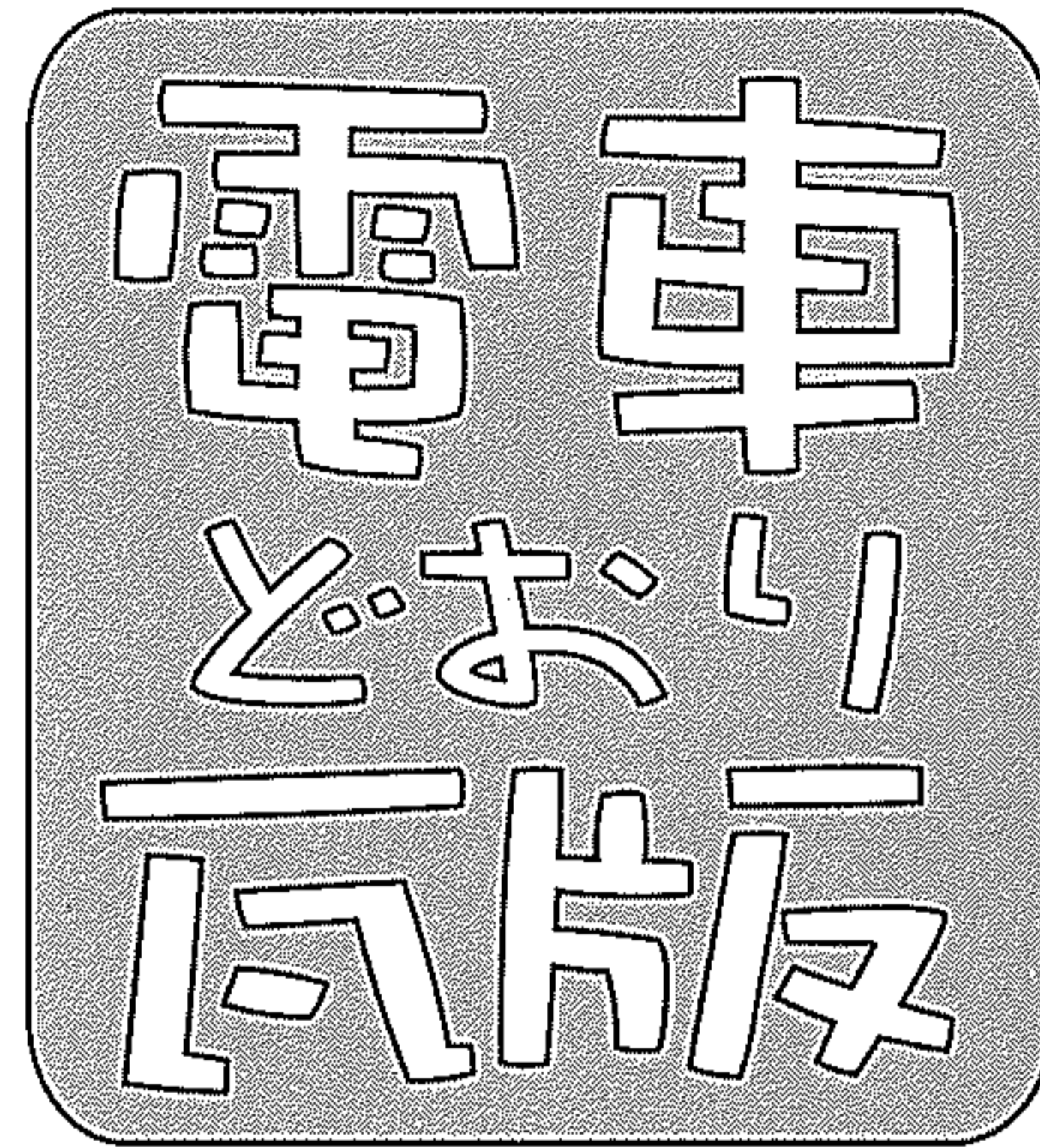
- 本町通三丁目商店街振興組合
- 岡崎銀座商店街振興組合
- 殿橋通発展会
- 岡崎明大寺商店街振興組合

■協力

岡崎商工会議所
岡崎市観光協会

■編集協力

三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」
岡崎江戸仲間



2006年(平成18年)5月・6月(第5号)

電車どおりの住民が
ご近所のネットワークを活かし
まち歩きを楽しむ
オススメのポイントをご紹介します。

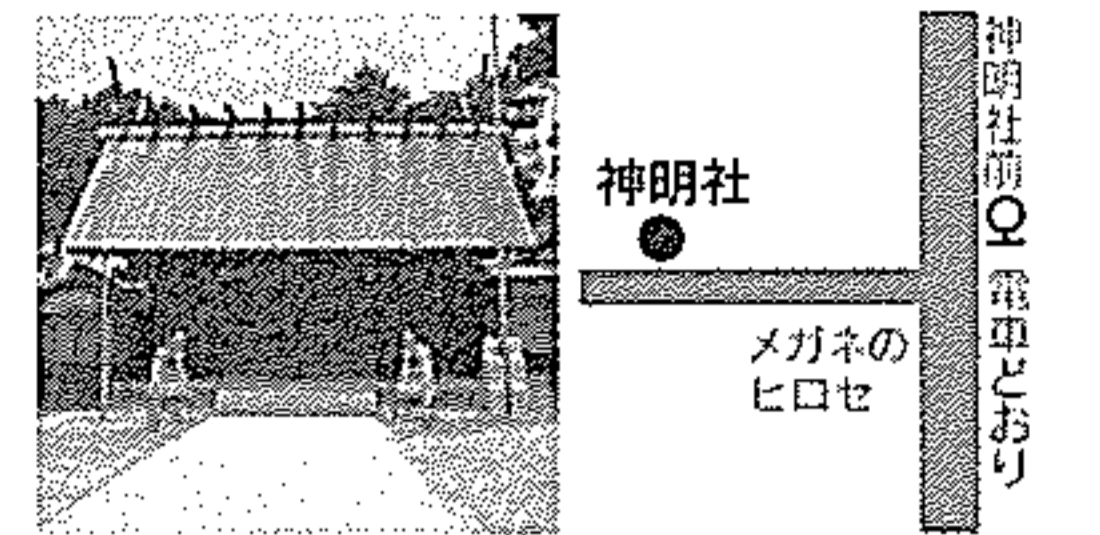


私たちの町へ。
リバーシブル

カワゲチケン

本町がいわい

神明社 (しんめいしゃ)

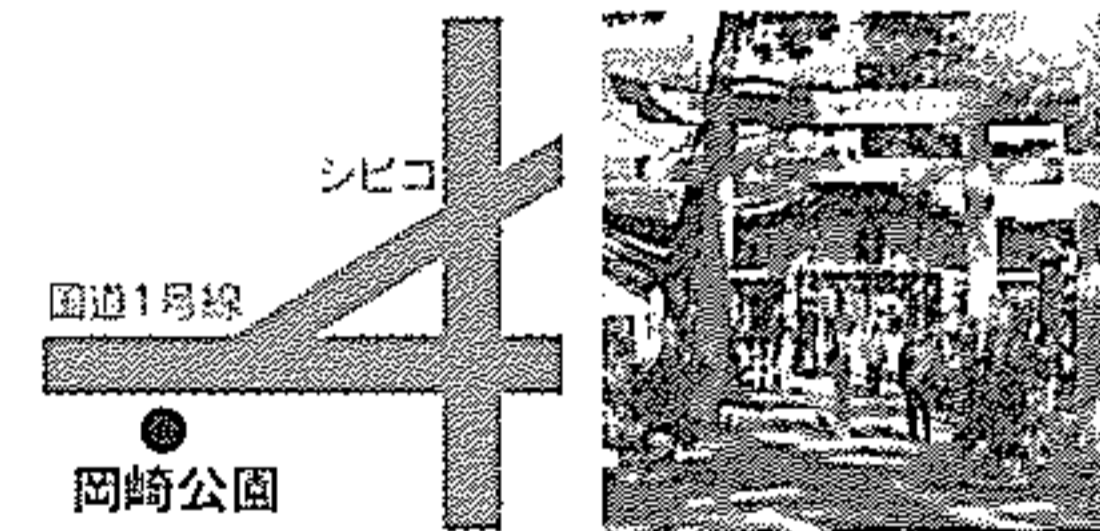


鎌倉時代の創建と伝えられ、毎年5月の第2日曜日に開催される大祭は、岡崎三大祭のひとつとなっています。江戸時代中期頃に、山車(やまぐるま)が、町中を巡る今のスタイルができました。現在、氏子12カ町に8台の山車が保存されています。前日祭の宵祭・山車揃え、奉納花火、大祭の御神輿渡御、山車町曳きと続き、勇壮な山車宮入でクライマックスを迎えます。

■岡崎市元能見町42-1

殿橋のたもと

龍城神社 (たつきじんしゃ)



徳川家康公と、徳川四天王のひとりである本多忠勝公を祀る神社です。明和6年(1769)に岡崎に入封し、廃藩置県まで岡崎藩を治めた本多家では、龍城神社の例祭にあたっては、藩主を先頭に鎧兜に身を固めた藩士が隊列を組み行軍し参拝するのを常としていました。岡崎の春を彩る「家康行列」は単なる武者行列ではなく、龍城神社にゆかりの、由緒正しいものなのです。

■岡崎市康生町561 (岡崎公園内)